

1. 授業の概要(ねらい)

20世紀心理学の指導的役割を果たした、ウィリアム・ジェイムズの『心理学原理』、その第10章「自己の概念」後半部分「純粹自我」以下を英文で読む。デカルトは考える「私」の存在を疑い得ないものと見なしたが、ジェイムズはデカルトと同じ内観的な方法を用いつつも、それが存在するとは言えないという結論を導き出して行く。しかも彼はヒュームのように最初から觀念の束として「私」を見なしたのではなく、「私」と思われる何かに内側から肉薄しながら、それを探求した結果それがどこにも知覚されないという見解に到り、それ以上の結論を形而上学に委ねる。この内観と思考の道筋を丹念にとどる。

2. 授業の到達目標

この授業は「購読」という名前がついていることもあり、純粹自我に関するジェイムズのテキストを丹念に読むことを通じて、何が問題であり、筆者はそれをどう解決しようとしたかを正確に把握する力を養う。「私」の存在をめぐる基本問題の把握と、文献読解の力を養う。

3. 成績評価の方法および基準

授業中に訳出を担当することで出席点とする。その上で期末に試験またはレポートを計画している。

4. 教科書・参考文献

教科書

William James The Principles of Psychology, The Works of William James
プリントにて配布する Harvard University Press

5. 準備学修の内容

テキストの英文を精読し、和訳できるように予習すること。根気よく、粘り強く読解して頂きたい。

6. その他履修上の注意事項

訳出にあたって、わからない英単語などは自分で調べておくこと。授業中の質問は歓迎する。

7. 授業内容

- 【第1回】 ジェイムズの『心理学原理』という書物の内容と心理学、哲学上の意義について。「自己の概念」の内容と、前期セメスターで扱う「純粹自我」の哲学史上の性質について。
- 【第2回】 「自己の概念」において、純粹自我は存在するようであり、実は存在していないと見なされることについて。テキスト p.314 THE PURE EGO
- 【第3回】 p.314-315 The Sense of Personal Identity
- 【第4回】 p.315-316
- 【第5回】 p.316
- 【第6回】 p.317
- 【第7回】 p.317-318
- 【第8回】 p.318-319
- 【第9回】 p.319-320
- 【第10回】 p.320
- 【第11回】 p.320-321
- 【第12回】 p.321-322
- 【第13回】 p.322-323
- 【第14回】 p.323-324
- 【第15回】 p.324 前期セメスターのまとめ